

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)

高等教育研究・開発センター

(責任者名) 吉田 広毅

(役職名) 高等教育研究・開発センター長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	オンライン授業で展開している「KGUデータサイエンス概論」では、授業の運営に授業支援システム(LMS)manabaを活用しており、履修者のアクセス・資料閲覧状況や課題への回答状況等を把握するとともに、フィードバックを提供することができる。また対面授業の「KGUデータサイエンス演習」においても、manabaを補完的に用いて学習支援を行うとともに、出席確認システムを通じて履修者の出席状況の確認が可能である。 以上のことから、本学では、プログラムの履修状況を確認し、適宜サポートやフィードバックを学生に提供することにより、単位等の修得を促すとともに、プログラム運営の適切性を担保している。
学修成果	「学生による授業改善アンケート」における「シラバスの到達目標に掲げられている知識や能力は身に付きましたか」という設問において、7割以上が身に付いたと回答していることから、到達目標に掲げられている学修成果を概ね達成したものであると思われる。 以上により本プログラムを修了した学生は、到達目標に掲げられているデータサイエンスに関する基礎的な概念やデータの読み方データなどのデータリテラシーへの理解を深めることができたものと考えられ、分析目的に応じて、適切なデータ分析手法を学んだことで、専門分野での学習や研究に繋がっていると思われる。
学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度	本学では、原則として一定規模以上の全ての科目について、全学的に「学生による授業改善アンケート」を実施しており、当プログラムを構成する「KGUデータサイエンス概論」「KGUデータサイエンス演習」についても、アンケートの実施対象科目と位置付けている。授業改善アンケートにおける「授業の内容を理解できましたか」という設問において約7割が理解できたと回答していることを把握している。 以上の学生アンケートの結果から、本プログラムの到達目標に定められた内容に関する学生の理解度は高いと知覚されていることが示唆される。
学生アンケート等を通じた後輩等の学生への推奨度	アンケート項目のうちに、後輩等他の学生への推奨度を測る設問はないが、授業の総合評価を問う設問(「この授業の総合評価は、どれにあてはまりますか。」)では、7割以上が「非常に良い」もしくは「良い」と回答している。また、授業の難易度を問う設問(「この授業の難易度は適切でしたか。」)についても、7割以上が「適切であった」と回答している。 以上のことから、本プログラムを受講した学生の本プログラムを後輩等の学生への推奨度は高いことが予想される。
全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況	「KGUデータサイエンス概論」は、授業形式をオンラインで開講したことで、教室定員等に縛られることなく、履修を希望する全学生に履修機会を提供することができた。その結果、履修者数の当初予想を超える履修登録があり、来年度、本科目のクラス数を増やすことを決定した。 「KGUデータサイエンス演習」については、対面授業であるため、各学部の必修科目の時間割と調整した上で、開講曜日・講時を設定したことで、文理横断的に多くの学部の学生の履修に繋がった。 以上のことから、全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況は概ね良好であるといえる。
学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	本プログラムは令和5年度から開講しているため、現時点で、プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価についての情報入手が困難であるが、今後は、進路や活躍状況について確認する仕組みを検討したい。 なお、本プログラムの構成科目は、来年度より、全学部横断の社会課題解決型カリキュラムである「グローバルインスティテュート」にも導入する予定である。また、「KGUデータサイエンス演習」には授業を補助するティーチング・アシスタントまたはスチューデント・アシスタントを配置している。今後、本プログラムの修了者が専門分野を超えて協働したり、他の学生の学びをサポートしたりすることが期待される。
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	高大連携制度により、高校生が当プログラムを構成する科目を履修できるようにしており、本年度、30名を超える高校生の履修があった。高校生を対象に実施したアンケートにおいて、興味・関心を問う設問(「この授業の学問分野に興味を持ちましたか。」)において、8割が「よりデータサイエンスに興味を持った」と回答している。このことから、本プログラムは、学外者からも相当の評価を得ているものと判断できる。 なお、本プログラムは、令和5年度より開始したプログラムであるため、現時点で産業界からの意見を聴取することは難しいが、今後学外からの意見聴取の方法を検討したい。
数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること	本プログラムの導入科目となる「KGUデータサイエンス概論」において、講義形式でありながら、実際にExcelでデータを扱う等、演習の要素も取り入れることで、データを活用することの意義を実感できる授業構成となっている。また、実社会で使われているデータに多く触れることで、学生にとり、より身近なものと感じさせるよう工夫している。その結果、授業改善アンケートにおける学問分野への興味を問う設問において、7割の受講生がデータサイエンスに「強い興味を持った」または「やや興味を持った」と回答した。 以上のことから、データサイエンス等の「学び楽しさ」「学ぶことの意義」を受講生は知覚していることが予想される。
内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること	「KGUデータサイエンス演習」では、1クラスごとの人数制限を設けることで、教員の指導が行き届くよう配慮している。また、各クラスに1名以上のティーチング・アシスタント(またはスチューデント・アシスタント)を配置し、履修者が疑問を分からないままにせず、すぐに解決できるような仕組みにした。その結果、授業改善アンケートにおける授業内容の理解度を問う設問において約7割の受講生が理解できたと回答した。 以上のことから、本プログラムは、内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業となっていることが予想される。